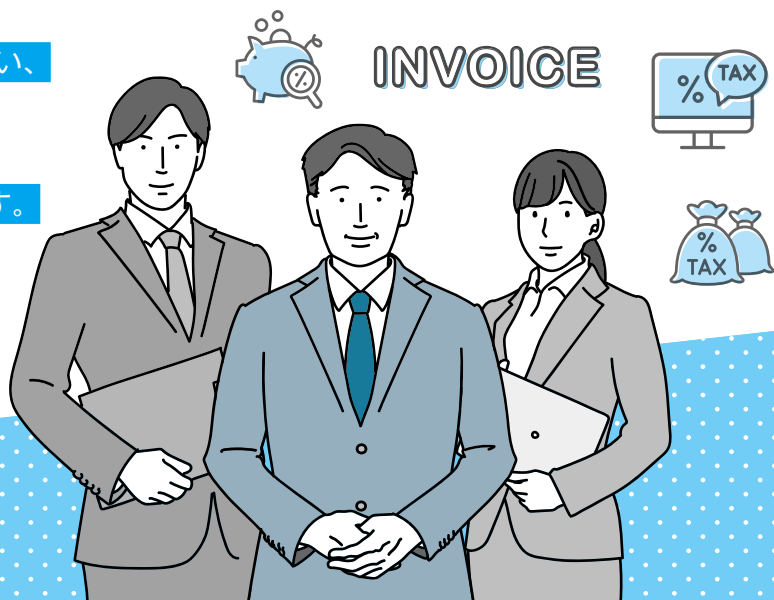


# インボイス制度導入後の 「端数処理」はこう変わる！

ことし10月のインボイス制度の導入に伴い、  
消費税の端数処理の方法が変わります。  
そこで、インボイス制度導入後の  
端数処理について実務に即して解説します。

ビジネス・ブレイン税理士事務所  
税理士

畑 中 孝 介



## インボイス制度における 仕入税額控除の留意点



### (1) インボイスとは

ことし10月1日から、適格請求書等保存方式（以下「インボイス制度」といいます）が始まります。

インボイス制度では、売手である登録事業者は、買手である取引相手（課税事業者）から求められたときは、適格請求書（インボイス）を交付しなければなりません。

インボイスとは、売手が買手に対し、正確な適用税率や消費税額等を伝えるための手段で、具体的には、適用税率や税額などの一定の事項が記載された請求書や請求書に類する書類（納品書・領収書・レシート等）のことです。

インボイス制度とは、仕入税額控除（課税売上の消費税額から課税仕入れの消費税額を差し引くこと）を受けるための要件が、現行の「区分記載請求書等保存方式」から「適格請求書等保存方式」へと変更された制度なのです。

### (2) なぜ端数処理が重要なのか

現行の区分記載請求書では、消費税額が記載事項になっていないため、端数処理のルールは一律に

は定められていません。

しかし、インボイス制度では、売手と買手の消費税額を合致させる必要があるため、消費税の端数処理のルールが定められます。

具体的には、税率ごとに合計した対価の額に税率を乗じて消費税額を求めます。つまり、明細行ごとの端数処理等を行なっている場合には、請求書等に係るやり方を変更する必要があります。

現行の区分記載請求書等保存方式では「総額」が重要な要素でしたが、インボイス制度では「消費税額」が重要な要素となります。

### (3) インボイス制度における仕入税額控除の変更点

消費税の仕入税額控除を受けるためには、帳簿および請求書等の記載要件・保存要件の両方を満たす必要があります。

インボイス制度導入後は、現行の区分記載請求書等の記載要件に加え、登録番号や税率ごとに区分した消費税額等いくつかの記載事項が追加されています（図表1）。帳簿の記載・保存要件は現行と変わりません。

### (4) インボイス制度における税額の計算方法

インボイス制度においても、売

図表1 適格請求書の記載事項

【記載事項】 ○下線の項目が、現行の区分記載請求書の記載事項に追加される事項。 ○不特定多数の者に対して販売等を行なう小売業、飲食店業、タクシー業等に係る取引については、適格請求書に代えて、適格簡易請求書を交付することができる。	
適格請求書	適格簡易請求書
① 適格請求書発行事業者の氏名または名称および登録番号	① 適格請求書発行事業者の氏名または名称および登録番号
② 取引年月日	② 取引年月日
③ 取引内容(軽減税率の対象品目である旨)	③ 取引内容(軽減税率の対象品目である旨)
④ 税率ごとに区分して合計した対価の額(税抜きまたは税込み)および適用税率	④ 税率ごとに区分して合計した対価の額(税抜きまたは税込み)
⑤ 税率ごとに区分した消費税額等*	⑤ 税率ごとに区分した消費税額等*または適用税率
⑥ 書類の交付を受ける事業者の氏名または名称	

請求書

△△商事(株) 登録番号 T012345...

11月分 131,200円 ××年11月30日

日付	品名	金額
11/1	魚 *	5,000円
11/1	豚肉 *	10,000円
11/2	タオルセット	2,000円
...	...	...
合計	120,000円	消費税 11,200円
8%対象	40,000円	消費税 3,200円
10%対象	80,000円	消費税 8,000円

\* 軽減税率対象

領収書

スーパー○○ 東京都... 登録番号 T012345...

××年11月30日

ヨーグルト *	1	¥108
カップラーメン *	1	¥216
ビール	1	¥550
合計		¥874
8%対象		¥324
10%対象		¥550
消費税額		¥24
消費税額		¥50
お預り		¥1,000
お釣		¥126

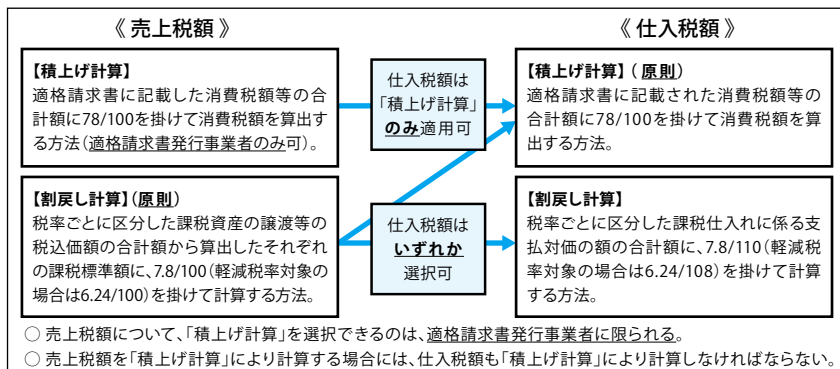
\* 軽減税率対象

適用税率または消費税額等のどちらかを記載 ※両方記載することも可能

※ ⑤の「税率ごとに区分した消費税額等」の端数処理は、一の適格請求書につき、税率ごとに1回ずつとなる。

出典：国税庁「適格請求書等保存方式の概要—インボイス制度の理解のために—」

図表2 税額計算の方法等



出典：国税庁「適格請求書等保存方式の概要—インボイス制度の理解のために—」

上税額から仕入税額を控除すると  
いった税額の計算方法は現行と変わ  
りません。

① 売上税額の計算方法

インボイス制度における売上税  
額の計算方法は、税率ごとに集計  
した取引金額を割り戻して計算す  
る「割戻し計算」と、インボイス  
に記載した税額を積み上げて計算  
する「積上げ計算」の選択制とさ

れます(図表2)。

② 仕入税額の計算方法

課税仕入れにかかる税額の計算  
方法は、原則積上げ計算とされ、  
相手方から交付を受けたインボイ  
スに記載されている消費税額等を  
積み上げて計算することになりま  
す(割戻し計算も一定の条件の下  
で認められます)。

つまり、原則となる積上げ計算

では消費税額が重要になり、必然  
的に端数処理というものが重要に  
なります。

インボイス制度における  
端数処理の概要と留意点

(1) インボイスに記載する消費  
税の端数処理

インボイスに記載する消費税額

等の端数処理については、一のイ  
ンボイスにつき、税率ごとに1回  
の端数処理を行なうことと決めら  
れています。

消費税額等の計算にあたって  
は、取引に係る税抜価額または税  
込価額を税率ごとに区分して合計  
した金額に対して、10%または  
8%(税込の場合は10/110  
または8/108)を乗じて得  
た金額に対して端数処理を行ない  
「消費税額等」を算出します。

したがって、インボイスの記載  
事項である「税率ごとに区分した  
消費税額等」に1円未満の端数が  
生じる場合には、一のインボイス  
につき、税率ごとに1回の端数処  
理を行なうこととなります。

一のインボイスに記載されてい  
る個々の商品ごとに消費税額等を  
計算し、端数処理を行ない、その  
合計額を「税率ごとに区分した消  
費税額等」として記載するような  
方法は認められないこととなりま  
す。つまり、何をインボイスとし  
て定義するかによって端数処理は  
異なります。

なお、端数処理は、「切上げ」  
「切捨て」「四捨五入」など、任意  
の方法でよいこととされています  
(次ページ図表3)。

図表3 税抜金額を基に消費税額を計算する場合の記載例

○

認められる例

請求書					
××年11月30日 関△△ (T0123...)					
請求金額(税込) 60,197円 ※は軽減税率対象					
取引年月日	品名	数量	単価	税抜金額	消費税額
11/2	トマト ※	83	167	13,861	(注)ー
11/2	ピーマン ※	197	67	13,199	ー
11/15	花	57	77	4,389	ー
11/15	肥料	57	417	23,769	ー
8%対象計				27,060	端数処理 →2,164
10%対象計				28,158	端数処理 →2,815

上記のように税抜き価格を税率ごとに区分して合計した金額に対して10%または8%を乗じて得た金額に端数処理を行なう。以下のように、個々の商品ごとに消費税額を計算し、その計算した消費税額を税率ごとに合計し、適格請求書の記載事項とすることはできない。

×

認められない例

取引年月日	品名	数量	単価	税抜金額	消費税額
11/2	トマト ※	83	167	13,861	行ごとに端数処理 →1,108
11/2	ピーマン ※	197	67	13,199	→1,055
11/15	花	57	77	4,389	→438
11/15	肥料	57	417	23,769	→2,376
8%対象計				27,060	→2,163
10%対象計				28,158	→2,814

出典：国税庁「適格請求書等保存方式の概要－インボイス制度の理解のために－」

図表4 請求書と納品書の記載例（請求書に消費税額を記載する場合）

請求書 ××年11月30日

関△△御中

10月分(10/1～10/31) 109,200円(税込)

納品書番号	金額
№0011	11,960円
№0012	7,640円
№0013	9,800円
合計	109,200円 (消費税9,200円)
10%対象	66,000円 (消費税6,000円)
8%対象	43,200円 (消費税3,200円)

△△商事(株)  
登録番号 T1234567890123

「税率ごとに区分した消費税額等」  
※端数処理は請求書につき税率ごとに1回

納品書

納品№0013

納品書

納品№0012

納品書

納品№0011

納品書

関△△御中 △△商事(株)

下記の商品を納品いたします。  
XX年10月1日

品名	金額
牛肉 ※	5,400円
じゃがいも ※	2,160円
割り箸	1,100円
ビール	3,300円
合計	11,960円

※印は軽減税率対象商品

は適格請求書の記載事項

出典：国税庁「適格請求書等保存方式（インボイス制度）の手引き」

## (2) 複数書類でインボイスの記載事項を満たす場合の消費税額等の端数処理

インボイスの様式は、法令等で定められておらず、必要な事項が記載された書類（請求書、納品書、領収書、レシート等）であれば、その名称を問わず、手書きであってもインボイスとなります。また、1つの書類ですべての記載項目を満たす必要はなく、記載

事項がすべて満たされていれば、複数の書類をまとめて一のインボイスとすることも可能です。ただし、何をインボイスとするかによって、消費税額の端数処理方法・処理結果が変わることになりますので、注意が必要です。

① 合計請求書単体で一のインボイスとする場合

合計請求書に「適格請求書発行事業者の名称」「税率ごとに区分

して合計した税込価額」「適用税率」「税率ごとに区分した消費税額」「交付を受ける事業者の名称」「取引年月日」「商品名」を記載した場合は、合計請求書単体でインボイスの記載事項を満たすこととなります。

この場合、合計請求書に「税率ごとに区分した消費税額等」を記載するため、請求書ごとに税率ごと1回の端数処理を行います。

## ② 請求書と納品書をセットで一のインボイスにし、請求書に消費税額等を記載する場合

図表4のように、請求書に「適格請求書発行事業者の名称」「税率ごとに区分して合計した税込価額」「適用税率」「税率ごとに区分した消費税額」「交付を受ける事業者の名称」を記載し、納品書に「取引年月日」「商品名」を記載した場合は、納品書と請求書を合わせてインボイスの記載事項を満たすこととなります。

この場合、請求書に「税率ごとに区分した消費税額等」を記載するため、請求書ごとに税率ごと1回の端数処理を行います。

③ 請求書と納品書をセットで一のインボイスにし、納品書に消費税額等を記載する場合

図表5のように、納品書に「取引年月日」「商品名」「税率ごとに区分して合計した税込価額」「適用税率」「税率ごとに区分した消費税額」を記載し、請求書に「適格請求書発行事業者の名称」「交付を受ける事業者の名称」「登録番号」を記載した場合は、納品書と請求書を合わせてインボイスの記載事項を満たすこととなります。

この場合、納品書に「税率ごと



図表5 請求書と納品書の記載例（納品書に消費税額を記載する場合）

請求書		××年11月30日
〇〇〇〇御中		
10月分(10/1~10/31) 109,200円(税込)		
納品書番号	金額	
No.0011	12,800円	
No.0012	5,460円	
No.0013	5,480円	
⋮	⋮	
合計	109,200円	
△△商事(株)		
登録番号 T1234567890123		

関連の明確化

納品No.0013		納品書
納品No.0012		納品書
納品No.0011		納品書
〇〇〇〇御中		△△商事(株)
下記の商品を納品いたします。		
XX年10月1日		
品名	金額	
牛肉 ※	5,400円	
じゃがいも ※	2,300円	
割り箸	1,100円	
ビール	4,000円	
合計	12,800円	
10%対象	5,100円	(消費税464円)
8%対象	7,700円	(消費税570円)
※印は軽減税率対象商品		

は適格請求書の記載事項

(参考) この場合、請求書に「税率ごとの消費税額等」の記載は不要だが、納品書に記載した消費税額等の合計額を記載しても差し支えない。

例) 合計 109,200円(消費税8%:3,200円/10%:6,000円)  
合計 109,200円(消費税9,200円)等

なお、当該消費税額等の合計額については、法令上において記載を求める適格請求書の記載事項としての消費税額等にはならないので留意する。

「税率ごとに区分した消費税額等」  
※端数処理は納品書につき税率ごとに1回

は適格請求書の記載事項

(参考) この場合、請求書に「税率ごとの消費税額等」の記載は不要だが、納品書に記載した消費税額等の合計額を記載しても差し支えない。

例) 合計 109,200円(消費税8%:3,200円/10%:6,000円)  
 合計 109,200円(消費税9,200円)等

なお、当該消費税額等の合計額については、法令上において記載を求める適格請求書の記載事項としての消費税額等にはならないので留意する。

出典：国税庁「適格請求書等保存方式（インボイス制度）の手引き」

図表6 対価の額から直接減額して処理する場合の記載例

請求書			
〇〇〇〇御中			
No	日付	品名	金額
1	10/1	オレンジジュース※	100円
2	10/1	キッチンペーパー	1,000円
3	10/1	リンゴジュース※	300円
...	...	...	...
10%対象		税抜 5,200円	消費税額 520円
8%対象		税抜 5,100円	消費税額 408円
総計			11,228円
出精値引き			▲228円
値引き後総計			11,000円
10%対象		税抜 5,096円	消費税額 509円
8%対象		税抜 4,996円	消費税額 399円
※印は軽減税率対象商品			
△△商事(株) 登録番号 T1234567890123			

**「出精値引き」額を合理的に区分**  
 (資産の譲渡等の税抜価額の比率で按分)  
**《10%対象》**  
 $228円 \times 5,200 / (5,200 + 5,100)$   
 $\approx 115円$  (税込値引額)  
 $(5,200円 + 520円) - 115円 = 5,605円$   
 (値引き後の税込対価の額)  
 $5,605円 \times 10 / 110$   
 $\approx 509円$  (値引き後の対価に係る消費税額)  
 $5,605円 - 509円 = 5,096円$  (値引き後の税抜対価の額)

**《8%対象》**  
 $228円 \times 5,100 / (5,200 + 5,100)$   
 $\approx 113円$  (税込値引額)  
 $(5,100円 + 408円) - 113円 = 5,395円$   
 (値引き後の税込対価の額)  
 $5,395円 \times 8 / 108$   
 $\approx 399円$  (値引き後の対価に係る消費税額)  
 $5,395円 - 399円 = 4,996円$  (値引き後の税抜対価の額)

標準税率10%対象(または軽減税率8%対象)のものからのみ値引きを行なったとしても、値引額または値引き後の対価の額が明らかとなっていれば、合理的に区分されているものに該当する。

出精値引き	▲228円
値引き後総計	11,000円
10%対象	税抜 4,993円 消費税額 499円
8%対象	税抜 5,100円 消費税額 408円

**《10%対象》**  
 $(5,200円 + 520円) - 228円$   
 $= 5,492円$   
 $5,492円 \times 10 / 110 \approx 499円$   
 $5,492円 - 499円 = 4,993円$

出典：国税庁軽減税率・インボイス制度対応室「消費税の仕入税額控除制度における適格請求書等保存方式に関するQ&A」

に区分した消費税額等」を記載するため、納品書ごとに税率ごと1回の端数処理を行います。

請求書をインボイスとして利用する場合、請求書においてまとめて端数処理を行なうこととなるため、どちらをインボイスとするかによって消費税額が変わることに

なります。

納品書をインボイスとした場合、あくまでも納品書に記載した消費税額が、法令に定めるインボイスの消費税額等となり、請求書に記載した消費税額等の合計額については、法令上において記載を求めるインボイスの記載事項とし

ての消費税額等にはならないので注意が必要です。

**(3) 端数値引きがある場合**

端数値引のうち、いったん請求書を発行したのち、後日支払い時点で行なわれる値引きである場合には、原則として売上に係る対価の返還等として「適格返還請求

書」を発行することになります。

一方、スーパー等でレジの支払い時に行なわれるような端数値引に関しては、対価の額から直接減額して処理することになります。

その場合、適格請求書には、値引き後の対価の額に係る消費税額等の記載が必要です(図表6)。

はたなか たかゆき 税理士法人に20年勤務し、2015年独立。中小中堅企業の税務サービスおよび事業承継や組織再編アドバイザー業務を行なう。セミナー講師や新聞雑誌等への執筆実績多数。